日常生活の演技に演技意識が与える影響

○定廣英典¹・望月聡²

(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学心理学系)

キーワード: 日常生活の演技, 演技意識, 5 因子性格モデル

The relationship between acting-consciousness and acting of daily life

Hiddenori SADAHIRO¹, Satoshi MOCHIZUKI²

(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba., ²Institute of Psychology, University of Tsukuba.)

Key words: acting of daily life, acting-consciousness, five factor model of personality

問題

定廣・望月(2008)は日常生活の演技実行頻度を場面、行動、動機の 3 点から測定する「演技場面尺度」(ASS), 「演技行動尺度」(ACS), 「演技動機尺度」(AMS)を作成し, セルフ・モニタリング尺度(Snyder, 1974)との関連を調査した結果, いずれの尺度もセルフ・モニタリングの下位尺度の 1 つである「他者志向性」と高い相関がある一方で, 「演技性」との相関は比較的低いことが示された。一方で Renner, Friedel, Merzbacher, Laux(2008)が作成した「演技的自己呈示」の程度を測定する As if Scale とセルフ・モニタリング尺度との関連をみると, 定廣らとはことなり, 「演技性」との間に高い相関を示していた。

このように同じ演技であっても, 内容には質的な差異があると考えられる。そこで本研究では「演技」に関する意識(演技意識)を測定する尺度を作成し, 意識が日常生活の演技に与える影響を検討することで, 演技の質的な側面について検討することを目的とした。また 5 因子性格検査短縮版(藤島・山田・辻, 2005)を用いることで, 性格特性との関連についてもあわせて検討した。

方法

被調査者 大学生 187 名(男性 75 名, 女性 112 名)平均年齢 20.3 歳(SD=1.21)

尺度 1. 演技意識尺度: 本調査のために作成, 30 項目。2. AMS, ACS: それぞれ 22 項目, 18 項目 3. 5 因子性格検査短縮版(以下 FFPQ-50: 藤島・山田・辻, 2005, 50 項目)

結果

演技意識尺度の構成 演技意識尺度について, 最尤法, Promax 回転による因子分析を行った結果 21 項目が抽出された。第 1 因子は演技の負担感を示す「負担」, 第 2 因子は演技は自分を隠すものとの認識を示す「演技隠蔽」, 第 3 因子は演技の必要性を示す「必要性」, 第 4 因子は演技が無意識的に行われるとの認識を示す「無意識」, 第 5 因子は演技は利益的との認識を示す

「利益」とそれぞれ命名した。

パス解析 第 1 水準を FFPQ-50 の各因子, 第 2 水準を演技意識尺度の各因子, 第 3 水準を AMS, ACS の各下位尺度とした重回帰分析によるパス解析を行った。「関係維持動機」には「愛着性」, 「必要性」, 「無意識」から正のパスが, 「実利的動機」では「必要性」, 「利益」から正のパスが, 「関係獲得動機」では「情動性」, 「外向性」, 「愛着性」, 「必要性」, 「無意識」から正のパスが, 「遊戯性」から負のパスがみられた。「好印象操作演技」では「情動性」, 「外向性」, 「統制性」, 「必要性」, 「利益」から正のパスが, 「調和的演技」では「外向性」, 「愛着性」, 「必要性」, 「無意識」から正のパスが, 「負担」から負のパスがみられた。「負担」では「情動性」から正のパスが, 「愛着性」から負のパスがみられた。「自己隠蔽」では「情動性」から正のパスがみられた。「必要性」では「遊戯性」から正のパスがみられた。「無意識」では「情動性」, 「愛着性」, 「遊戯性」から正のパスがみられた。「利益」では「遊戯性」から正のパスがみられた。

考察

結果より, 「必要性」は演技頻度を増加させるが, 「負担」の認識は必ずしも減少させなかった。つまり演技へ悪い印象を抱いていても, 演技を行っている者が少なくないことが示唆される。また共感的・協調的な関係を表す特性である「愛着性」が多くの演技頻度を増加させており, 他者への共感や, 協調を示すために演技が行われていると考えられる。

主な引用文献

藤島 寛・山田尚子・辻 平治郎(2005). 5 因子性格検査短縮版(FFPQ-50)の作成 パーソナリティ研究, 13, 231-241.
定廣英典・望月 聡(2008). 日常生活演技尺度の作成 日本心理学学会第 72 回大会(札幌) 2008 年 9 月.

Figure1 演技行動尺度の下位因子「調和的演技」へのパス解析結果